報 告

日本神経科学学会 Web 総会

日本神経科学学会
会長　柚﨑 通介
庶務理事　礒村 宜和

オンラインで行われた本年の総会も無事に終了し、多くの会員に参加していただき、貴重なご意見をお寄せいただきました。オンライン総会でいただいたご意見については前回に引き続いて、下記のように担当責任者からコメントさせていただきました。

特に、今回重要な議題の一つであった、一般社団法人に移行するために必要な手続きにについてご承認いただき、また法人を運営するために必要な学術ドメイン調査にもご協力いただけたことを感謝しています。今回いただいたご意見を尊重し、より開かれかつダイバーシティに対応した学会として本学会がますます発展していけるように、学会運営を進めていきたいと考えています。

引き続き会員の皆様からの feedback をお待ちしています。

2022 年度 日本神経科学学会　総会報告

日　時：2022 年 8 月 19 日～ 30 日
会　場：Web 開催
参加者数：1,172 名（※審議資料を閲覧した人数）

審議資料について

審議資料に微修正を加えることを

承認する：1,172 名
承認しない：0 名

承認が参加者数の過半数を超えました。

審議事項 1 **会計報告**

この議案を承認する：1,170 名
この議案を承認しない：2 名

上記の通り、賛成が参加者数の過半数を超えましたので、審議事項 1：会計報告は承認されたものといたします（日本神経科学学会　会則　第二十二条）。

会員より寄せられたご意見

- 産学連携活動やダイバーシティ対応などいくつかの項目は内容が分かりくいので説明が欲しい。
- 一億円の繰越があるならば、会費を大幅に下げるべきだ。
- 繰越金が 1 億円を超えていますが、この額は妥当でしょうか？将来の日本の神経科学の発展を見据えての額か、現役会員の為の交流資金かによって、意味合いは変わると思いますが。
- 内容を確認させていただき問題ないかと思われました。会計報告に関する詳細のご報告の取りまとめ感謝いたします。
- 年会費は 1 ～ 12 月の請求だけでなく、年度（4 月～ 3 月）の請求も選べるようにしてほしいです。
- 適正な金額は分かりませんが、繰越金 1 億円以上も必要なのでしょうか？

山中会計理事よりご説明

学会会計に対してご理解・ご指摘をいただきありがとうございます。2021 年度決算は、会費収入増等により黒字決算となりました。「産学連携･ダイバーシティ対応」は、これらに関連する大会シンポジウム、ランチョン企画開催費用に充当しておりますが、2021 年度は大会開催形式の変更により支出はございませんでした。毎年度、資産を留保していることについては、1 億円超を要する大会決算に不測の事態により大きな赤字が生じた際の安全弁として必要と考えております。年会費の請求については、法人に移行した際に、会計年度が 4 ー 3 月に変更される予定です。引き続き、IT 化等の業務の効率化、コストの見直しを行い、健全な学会会計を維持する努力を続けてまいりますので、どうかご理解とご支援をいただきますようお願いします。

審議事項 2　一般社団法人化を見据えた会則の改定

この議案を承認する：1,171 名
この議案を承認しない：1 名

上記の通り、賛成が参加者数の 3 分の 2 を超えましたので、審議事項 2：会則改訂は承認されたものといたします（日本神経科学学会　会則　第二十五条）。

会員より寄せられた意見

- 下記のカテゴリーにどの様な研究トピックが含まれるのか不明瞭だと思いました。特に B のシステム・情報神経科学には何が含まれるでしょうか。情報神経科学とは何が含まれるでしょうか？ A. 基礎神経科学、B. システム・情報神経科学、C. 臨床・病態神経科学
- 一般社団法人化にあたり、現団体をいったん解散してから改めて新しい学会に事業を引き継ぐとのことですが、いったん「解散」という形をとる理由が良くわからないので、その点について少し説明があると良いと思います。
- 現役研究者の雑務軽減のためには、学会の法人化は必要だと考えます。ただし、法人が単なる天下り先になったり、一部の人の意見ばかりが反映されることにならないよう、公平・透明性を確保していく必要があると思います。
- 別学会（公益社団法人）では、理事会の報酬制度設置（年 1 万円）の決議に手間取っています。なるべく評議委員会や理事会で解決できるような制度が良いですね。
- 学術ドメイン制度に関してですが、A. 基礎神経科学 B. システム・情報神経科学 の区別が必ずしも明瞭でないように感じます。具体的には、神経系の基礎的なメカニズムをシステム・情報の観点から探るような研究は重要かつ盛んであるように思うのですが、その場合に A と B のいずれを選ぶべきかが明確でないように思います。この点において、現行のパネルの、「分子・細胞神経科学、二 システム神経科学、三 臨床・病態神経科学、（四 その他の神経科学）」という分類の方が（「その他の神経科学」はともかくとしても）明確であるように個人的には感じるところですが、「分子・細胞神経科学」から「基礎神経科学」に変更するのはどのような理由または目的からでしょうか？（「システム神経科学」から「システム・情報神経科学」への変更は異存ございません）
- 第七条の「5 年以上」は短いのではないでしょうか。現行の期間でよいかもしれません。

礒村庶務理事よりご説明

一般社団法人に移行後は、学術ドメイン制度を活かしてバランスの取れた学会運営を目指します。従来のパネル分類は、多階層的な研究が一般的になったこと、その他の扱いは改善すべきことから、見直しを迫られていました。新しい学術ドメインの名称は、理事会や各委員会で検討を繰り返し、会員アンケートでお寄せいただいたご意見も採り入れて定めました。先入観や誘導を避けるために具体例はあえてお示ししておりません。ご判断に迷われる立場の方もいらっしゃることとは存じますが、名称そのものではなく、ご自身がどの立場から学会の運営や発展に寄与したいかという視点で捉えていただければ幸いです。なお、評議員・理事選挙の有権者はすべての学術ドメインの立候補者に投票します。評議員や理事の資格として、原則として会員歴 5 年以上の事項を設けています。これは学会経験を有し次世代を担う若手研究者にも活躍してもらうことを狙いとしています。

一般社団法人化にあたっては、まず 2023 年春に一般社団法人を設立し、しばらく現行の任意団体と併存させて、徐々に業務と会員と資産を移行します。移行が完了した後に現団体の解散を宣言し、清算人が最終報告をお伝えすることになります。本学会は一般社団法人に移行することで法的に定款を整備し、公平性と透明性を一層確保いたします。現役研究者である評議員と理事と理事長が無報酬で学会運営にあたりますので、いわゆる天下り先になることは考えにくいです。一般社団法人化の実現にあたり会員の皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

学術ドメイン調査

A. 基礎神経科学 (Basic Neuroscience)	678
B. システム・情報神経科学 (Systems & Information Neuroscience)	261
C. 臨床・病態神経科学 (Clinical & Pathological Neuroscience)	233

礒村庶務理事よりご説明

今回の調査より算出した学術ドメインの構成比（A.57.8%, B.22.3%, 19.9%）は、今回の理事選挙および評議員選挙で学術ドメインに配分する定数の算定に使用いたします。

報告事項 1　庶務報告

会員より寄せられた意見

- 法人化の動きを支持します。

- 学会員が近年やや減少傾向にあるように見えます。コロナ感染の一過的な影響であれば良いのですが、神経科学分野が成熟し切って、縮小が始まっている可能性もあります。今後、注意する必要があるのではないでしょうか。
- 会員数の減少は多くの学会で課題になっているようですが，対策のご検討をされているようでしたら広く会員にお知らせしてもよいと思います。

礒村庶務理事よりご説明

会員動向に関するご指摘をありがとうございます。近年の少子化やコロナ禍の影響を含めて、理事会でも会員動向を常に分析し、会員の確保につながる各種企画を打ち出しております。皆様も良いアイディアをお持ちでしたらぜひご提案いただけますようお願いいたします。

報告事項２　第 45 回大会（Neuro2022）報告

会員より寄せられた意見

- Congratulations on the success of the event despite COVID and Typhoon.
- コロナ感染再拡大や、台風の襲来など大変だったとは思いますが、運営者の皆様、本当にご苦労様でした。
- 久しぶりの本格的会議参加で、大変楽しく有意義な会議でした。コロナ禍での開催故、大変なご苦労があったことと存じます。関係者の方に感謝申し上げます。
- 現地参加しました。久しぶりの OnSite 開催、本当にありがとうございました。感染対策など大変だったと思いますが、おしなべてよく対応してくださっていたと思います。1 点だけ。バスの運行にもう少し柔軟性があると大変良かったと思います（1 時間に 1 本でも運航をつづける、など）。いずれにせよ、ハイブリッド開催は大変だと思いますが、OnSite での開催は、大変有意義な時間になりました。感謝いたします。
- 大会参加費が高いように思います。
- 二学期制の学科に所属している場合、7 月末から 8 月上旬は前期の試験期間と被るので、今後の開催時期は再考してほしい。
- 今回の大会はオンラインのみの参加でした。現地での活気を直に感じることはできませんでしたがオンラインからの質問もありハイブリッド開催は盛況であったように思います。欲を言えばタイムシフトの配信をプレナリーレクチャー等以外にも適応して欲しかったところです。著作権の問題から演者先生方の同意が不可欠ではありますが、今後もタイムシフト配信などのオンラインを活用していただければ有難いと思いました。
- neuro2022 で基礎学会と臨床学会をむすぶ , がとても良かったと思います。神経科学会でしかできない基礎と臨床のかけはしで、若手から中堅の科学者の助けになると思います。特にトランスレーション、リバーストランスレーションの受け皿、になってくれればとおもいます。具体的に、これらを行う教室、施設など交流がほしいところです。
- 大会後の参加者アンケートにおいて、回答者全員にアマゾンギフト券進呈、という企画があったのが気になりました。税金を原資とする研究費で支払われることの多い参加費を徴収して運営される学術集会ですので、換金性のある景品を出せるのであれば、その分の参加費を減額すべきではないでしょうか。
- IT was a nice prog. but by looking the general report it seems that the membership of society is expanding slowly therefore it is better to promote overseas in extensive way like offering junior membership or some special membership free of cost for 2-3 years as well doubling the travel grants for overseas members.

銅谷第 45 回大会長よりご説明

3 年ぶりに海外からの参加者も交えた対面開催を皆さまが有意義に感じてくださったことを大変嬉しく思うとともに、毎日の健康調査を始めとしたコロナ対策にご協力いただいたことに深く感謝致します。

沖縄の台風のピークシーズンを避けるため例年よりも早い 6 月末から 7 月初めの開催としました。結果的には近海で台風が発生しましたが、幸い大型にはならず全プログラムを予定どおり行うことができました。

シャトルバスは最寄りのモノレールおもろまち駅との間は朝夕以外も約 1 時間に 1 本の運行を行っておりましたが、那覇市内や空港方面への路線バスの案内なども充実すべきでした。

大会後のオンデマンド配信は、プレナリー、受賞、特別、教育講演に加えシンポジウムも講演者の許可の得られる範囲で行いましたが、一般口演まで含めることも検討課題として引き継ぎたいと思います。

合同大会の機会を活かした基礎と臨床をつなぐ企画や、海外からの若手参加者へのサポートの充実も、今後の課題として引き継がせていただきます。

大会参加費は一般会員で早期 20,000 円、当日 24,000 円と、2021 年神戸大会よりは低く抑えることができましたが、ハイブリッド開催は現地のみ、オンラインのみの大会に比べると経費がかかってしまう点ご理解をいただければと存じます。

アンケート回答に対するアマゾンギフト券進呈の妥当性は、今後大会委員会で議論していきます。

報告事項３　第 46 回大会（2023）報告

会員より寄せられた意見

- テーマの「銀河に輝く」と神経科学が意味が繋がりにくいので、説明が欲しい。(1)
- We look forward to the event in Sendai. Thank you for all the work on it. (2)
- 来年は世の中がどうなっているか分かりませんが、有意義な大会となるように、宜しくお願いします。(3)
- There should be few specific timings for networking (international) prog. during this annual meeting.....even to showcase the brilliant research from Japan It will be only successful if more and more international participants will be there (4)
- 2022 年の大会もそうだったが、文科省の 15 回授業の縛りもあり、大学の開講期間の平日では大学教員、学生の参加が困難になってきているので、開催日程について考慮して欲しい。(5)

小林第 46 回大会長よりご説明

(1) 本大会の開催は、仙台七夕祭の時期に重なりますことから、七夕祭にあやかり、今後とも神経科学の分野から、銀河に輝く多数の恒星のように多くの輝かしい研究成果が生まれることを祈るとともに、その成果につなげるために有益な活動を展開したいと考えています。仙台の地で、国内および国際的な情報収集や人材交流、国際連携、基礎と臨床研究の連携も含めた異分野間連携、ダイバーシティーを考慮した多様な研究者の活動支援、若手研究者の育成、研究成果の社会への還元などの活動を促すように努力したいと考えています。この点は、大会の挨拶文で説明しております。(https://neuroscience2023.jnss.org/greeting.html)

(2)Thank you very much for your encouragement.

(3) コロナ感染症の推移に注意を向けながら、大会の運営方法について検討して参ります。できる限りオンサイトで参加者の皆様の交流を活性化できように考慮しつつ、感染防御の観点からオンラインでの参加についても検討を加えていく所存です。

(4) We will try to increase the number of international participants by planning the plenary lecture, special lecture, symposiums, and other events, which will fascinate not only Japanese participants but also international participants.

(5) 今後の開催日程につきましては、将来検討いただけるように理事会にお伝えしておきます。

報告事項 4　大会委員会報告

会員より寄せられた意見

- 福岡、札幌と地方開催が続くのですね。楽しみです。宿泊できる施設の関係もあるのでしょうが、大都市だけでなく、偶には温泉都市などでの開催があっても良いのではないでしょうか。
- 大会委員を拝命しておりますが、2024，2025 年の大会のことを存じませんでした。委員会を失念していたのでしたら申し訳ございません。

大塚大会委員長よりご説明

例年の大会会場に付きましては、可能な限り都市部に集中しないように検討しておりますが、会場規模の関係で、会場自体は同じ場所になる傾向があります。一方、首都圏以外の地域でも、比較的規模の大きい施設（例えば今回の沖縄会場）の建設も進んでいることから、将来的には選択肢も広がると思われます。

2024，2025 年の大会に関しましては、特段大会委員会で議論はしておりませんでした。執行委員会を経て理事会での決定になりますが、今後は、大会委員会からの意見も反映させるように適宜委員会を開催できればと思います。

報告事項 5　Neuroscience Research 報告

会員より寄せられた意見

- 同様の学会誌との比較があると良い。
- I wonder if the decline in submission is common to other journals. If not, we'll need to think about assessment and revision.
- 論文掲載数が少ないことから、運営のご苦労をお察しいたします。特集号では、様々な先生方のご尽力のおかげで、興味深い review を見かけます。今後も発刊を続けるのであれば、もう少し雑誌の格をあげて、閲覧される論文数を増やす工夫をしていく必要があると思います。
- 僭越ですが意見申し上げます。他雑誌と比べて入稿者が偏っているわりに、引用が伸びていません。雑誌としての価値が上がってません。編集の過程に他雑誌と異なる弱みがあるのではないでしょうか。経験値のあるエディターの人数を増やし、独自に論文が書ける若手神経科学者の割合を半分に上げる必要があるとおもわれます。
- ご報告に関するコメントではありませんが、近年、対照群ほかの研究条件の設定や科学的論理に欠陥をもつ神経科学領域の研究が、有力学術誌でも少なからず掲載されていますので、本誌でも特に査読の質を上げるように注力をお願いいたします。
- エルゼビアからの報告書を確認しました。2021 年の Inpact Factor が前年比で低下しているようです。2020 年から 2021 年にかけて軒並み上昇した Journal が多い中での低下の理由が何か検証されたほうがよいかと考えます。もちろん高ければよいというわけではありませんが、引用される論文がないあるいは、引用に値しない論文が多いということを反映していることになります。自分は他の学会誌の

Managing Editor をしており、エルゼビアの協力を得て、わかりやすいい評価指標の IF を高めるために、過去の掲載論文の検証などを編集委員会で進めております。編集部の状況を存じ上げておりませんので、的外れな指摘となっているかもしれませんが、少なくとも末端会員にはその状況は伝わっておりません。Neuroscience research の展望を協議されることが必要と思います。ご検討のほどよろしくお願いいたします。

- IF があまり上がらないのはどうしてでしょうか？日本精神神経学会の英文誌 Psychiatry & Clinical Neuroscience はこの数年で上昇し 2021 年度は IF=12 です。

上口機関誌理事・NSR 編集主幹よりご説明

Web 総会でご報告した 2022 年の数値は年途中のものですが、Neuroscience Research（NSR）誌への投稿論文数は順調に増加しております。インパクトファクターとその他の指標は中長期的には上昇傾向にありますが、ご指摘の通り、これらの指標をさらに高めて本誌の国際的な影響力を増すための方策を進めることは、NSR 編集委員会の責務であると考えております。近年は査読を厳しくしたため採択率は 15 ～ 20%で推移しておりますが、さらに採択率を下げて掲載論文の質を高めるのか、引用が期待できる分野の論文を優先的に採択するのか等も含めて、編集方針を検討して参ります。2023 年 1 月より編集委員を大きく入れ替えて新たな体制で NSR 誌の発展を目指して参りますので、引き続き会員の皆様からのご支援をお願い申し上げます。